

「企業の森」かわら版

No.7

Autumn & Winter

2022/2023



「新宿の森 あきる野（企業の森）」

Contents

Autumn & Winter 2022/2023

企業の森の「いま」 秋・冬、企業の森の様子

- (1) コケの道 3
【グリーンアークの森（梅郷）】
- (2) 企業の森の植物や虫たち 4
- (3) 除伐/枝打ち 5
【新宿の森 あきる野（企業の森）】
【企業の森・SBSリコーロジスティクスグループ（御岳）】

花粉の少ない森づくり運動 News & Information

- 【企業の森・東栄住宅（青梅）】
で枝打ち（根払い）イベントを行いました 6
- 【グリーンアークの森（梅郷）】で開始式を行いました 7
- 【企業の森・三菱HCキャピタルグループの森（八王子市上恩方
鞍骨沢）】で下刈りイベントを行いました 8
- 【企業の森・SBSリコーロジスティクスグループ（御岳）】
で下刈りイベントを行いました 9
- 【東芝府中・青梅の森】で下刈りイベントを行いました 10
- 【リコーリースグループ豊かな未来への森・企業の森（日の出）】
で開始式を行いました 11
- ちょっと一休み「森のカフェテラスの話」 12

(1) コケの道

【グリーンアークの森(梅郷)】



コケとイラクサ(写真中央)

ここは、2022年2月にNPO法人グリーンアークの森と協定を結び、新しく加わった企業の森です。

企業の森に面して延びる林道には、車のわだちの間にコケやイラクサが生い茂っています。特に雨上がりに訪れると、さらに鮮やかな緑色にみずみずしさを増して我々を迎えてくれます。コケは、森に豊かな自然がある証です。コケが多くあることで、さらに豊かな森となります。

新緑や紅葉など季節によって森を訪れる理由は人によって様々だと思います。その理由に「コケを楽しむ」がまだない方は、加えていただくと、訪れる回数が増えるかもしれませんね。



企業の森の「いま」
秋・冬、企業の森の様子

ウィキペディア (Wikipedia) から～

苔(こけ、^{せん}蘚)・コケは、地表や岩の上にはいつくばるように成長し、広がるような植物的なもの。狭義のコケは苔類、蘚類、ツノゴケ類の総称としてコケ植物を指すが、コケはそれに加え菌類と藻類の共生体である「地衣類」や一部のごく小型の維管束植物や藻類などが含まれる。語源は「木毛」にあり、元々は樹の幹などに生えている小さな植物の総称だったとする説がある。英語ではmoss。

出典: フリー百科事典『ウィキペディアWikipedia』
文化史での「苔」について説明しています。生物学での分類については「コケ植物」をご覧ください。

とありました。詳しく調べようとする、1ページでは終わりませんので、ここではざらりと触れるだけにします。

一見同じように見える都市部のつくられた森ではあまりコケを見ることができません。企業の森では、足元に目を向けるとこんな緑のじゅうたんが広がっていますよというお話でした。



(2)企業の森の植物や虫たち



ヨウシュヤマゴボウ 8月
企業の森・きらぼしの森（八王子 裏高尾）



ガマズミ 10月
富士通グループ・あきる野 企業の森

サネカズラの別名は「美男葛（ヒナンカズラ）」。
その昔、この植物のツルから出るネバネバした液を髪につけて整髪料としていたのがこの別名の由来です。
そして絡み合うそのツルの形状から万葉の時代には様々な歌に詠まれていたようです。

名にし負はば 逢坂山の さねかつら 人にしられで 来るよしもがな（藤原定方）

さね葛（かつら） 後（のち）も逢はむと 夢（いめ）のみに うけひわたりて 年は経（へ）につつ（作者不詳）

あしひきの 山さな葛 もみつまで 妹に逢はずや 我が恋ひ居らむ（作者未詳）

企業の森で見つけた赤い実はとてもかわいらしく、はるか昔からせつなくなまめかしい歌に詠まれていた植物とは想像できませんでした。一言でいえばこれは雑草ですが、日本の森をつくる多様な動植物が日本の精神文化にも大きな影響を与えていると思いませんか？
次に見かけたら森づくりを次世代につなぐ歌でも詠んでみませんか？



コガネグモの巣 9月
グリーンアークの森（梅郷）

コガネグモの巣

注意してみるとクモの巣って、いろいろな形があることに気が付きます。企業の森で露で光り輝くクモの巣を見つけました。クモの姿を隠すことから「隠れ帯」というらしいですが、クモの種類によって、巣の機能は単に隠れるだけではなくいろいろあるらしいですよ。興味のある方、街中でも見つけることができますので、調べてみてくださいね。



ノダケ 10月
富士通グループ・あきる野 企業の森



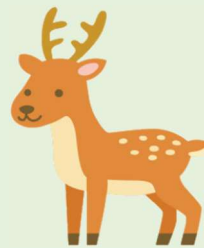
サネカズラ 12月
エコロじいの森（青梅 黒沢）



(3) 除伐/枝打ち

【新宿の森 あきる野(企業の森)】

【企業の森・SBSリコーロジスティクスグループ(御岳)】



(左写真3枚) 新宿の森 あきる野(企業の森)

(上写真2枚) 企業の森・SBSリコーロジスティクスグループ(御岳)

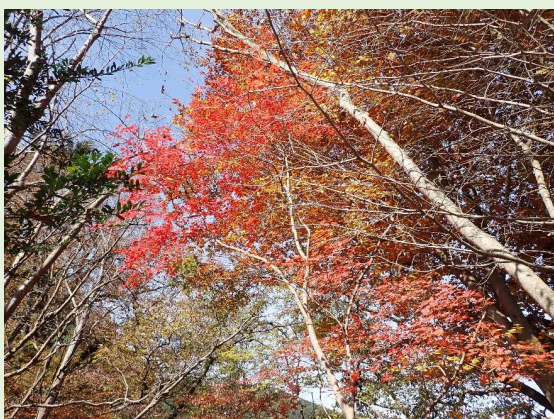
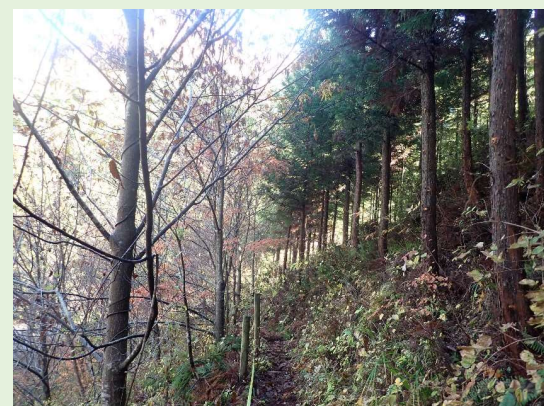
新宿の森あきる野(企業の森)は2010年に協定を結び、協定の延長を経てこの秋に除伐と枝打ちを行いました。

このことによって、うっそうとしていた作業道は見通しもよい歩きやすい道になりました。おかげさまで巡回もはかどりそうです。

企業の森・SBSリコーロジスティクスグループも、12年目を迎えた今年に除伐と枝打ち、そして境界の下刈りが行われ、全体的にすっきりとしました。

日本の豊かな自然の代名詞である森林。ただ、放置しては美しく豊かな自然を得ることはできません。

森林とはこのような手入れによる『賜物』なのです。





花粉の少ない森づくり運動 News & Information

【企業の森・東栄住宅（青梅）】で 枝打ち（根払い）イベントを行いました



第5回 2022年7月13日

参加人数： 42名

内容：枝打ち（根払い）

森づくりを開始してから7年目を迎えた東栄住宅（青梅）の3年ぶり第5回目のイベントとなる今回は、枝打ちと獣害防止対策を行いました。皆さんで根払いを行った後、その切った枝の葉先を下に向け幹に巻き付ける作業を二人一組で行っていただきました。この作業は、シカの高さより下方に枝を巻き付けることにより、食害と角こすりを防ぐことを目的としています。皆様が丁寧にしっかりと作業される姿を拝見することができました。その後、巻き付けた枝葉は獣害から木を守る役目をしっかりと果たし森の循環に大いに役立っているようです。



（株）東栄住宅では

森づくりを行う理由として、『森づくりは人づくり』

『花粉の少ない森へ』『森を通じた交流促進』を掲げています。

『森を通じた交流促進』は、「共同作業を通じて部署間の隔たりなく交流を深めることができ、企業の森はコミュニケーションの場としても貴重な機会となっています。」（東栄住宅HPより抜粋）と明記されています。今回のイベントでは、森の中での二人一組の共同作業をとおして、より一層コミュニケーションを図ることができました。



第1回 2022年9月13日

参加人数：13名

内容：開始式・植樹



森林所有者様、NPO法人グリーンアークの森からは井上代表並びに井上理事、弊財団理事長による看板の除幕式及び記念植樹が行われました。残暑が非常に厳しい中、300本の花粉の少ないスギの苗木を精力的に植えていただきました。

「グリーンアークの森（梅郷）」で
開始式を行いました



井上理事のお話

2004年から10年間はインドネシアのカリマンタン島で、2014年からは青梅市御岳（企業の森）で植栽・森づくり事業を続けてきました。グリーンアークの森（梅郷）を通じて、この取り組みを今後も長く続けていきたいとのことでした。



【企業の森・三菱HCキャピタルグループの森 (八王子市上恩方 鞍骨沢)】で下刈りイベントを行いました



第2回 2022年10月1日
参加人数：32名
内容：下刈り

気持ちのよい天候に恵まれ、下刈りイベントを行うことができました。
ここは裏高尾にあり、青空と木々のコントラストが映える企業の森として、自然の雄大さを感じていただける場所です。
コロナ禍で久しぶりの外の作業、または久しぶりにリアルにお会いしたという方もいらっしゃるのでは？実際、入社以来コロナ禍で、リアル出勤すら少なかったもので、このような自然の中での実体験は新鮮だったとの感想もいただきました。
皆様良い汗を流していただけたと思います。暑い中、お疲れさまでした。



第7回 2022年10月15日

参加人数：36名

内容：下刈り・つる切り

昨年の協定の延長により、12年がたとうとしています。弊財団がかかわるイベントとしては6年ぶりでしたが、短時間で下刈りとつる切りを効率よく行っていただきました。改めて、昔の写真と見比べると、看板まわりの広葉樹が青々と茂り、当時からある山頂の2本の大木と比べると植栽した木々の伸びがよくわかりますね。

「企業の森・SBSリコーロジスティクスグループ（御岳）」で下刈りイベントを行いました



2012年（5ページの写真とも見比べてみてください。）



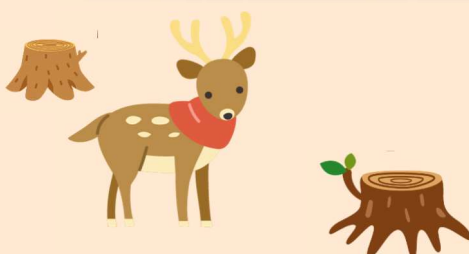
2015年



2022年



2019年





【東芝府中・青梅の森】で下刈りイベントを行いました



ピンクテープを巻き付けた苗木

第2回 2022年10月22日

参加人数：30名

内容：下刈り

イベントではノコギリを使って下草を刈りました。

植樹してから2年目の東芝府中・青梅の森。1年前の植樹時と比べると着実に成長していますが、苗木がまだまだ小さいため、翌年の夏に行う下刈り作業中に誤って苗木を伐ってしまう恐れがあります。そのようなことが起こらないよう、今回は下刈りをした後に、「ここに苗木がありますよー」という印として、苗木にピンクテープを巻き付ける作業を行いました。

これで、せっかく根付いた苗が、間違って雑草と一緒に刈り取られるということを防ぐことができますね。

このイベントには5人のお子さんも参加しました。最初に山の下の方で作業を行っていましたが、次第に上へ。最後には頂上まで登り、元気に写真撮影。山の作業って楽しいーと思っていただけで嬉しかったです！



「リコーリースグループ豊かな未来への森・
企業の森（日の出）」で開始式を行いました



第1回 2022年11月19日

参加人数：27名

内容：開始式・植樹

コナラ180本

リコーリース株式会社にとって初めての活動となるイベント（開始式、植樹）が行われました。開始式では、森林所有者であるみんなの森財団代表理事園田様、リコーリース（株）取締役佐野様、経営管理本部長大澤様、弊財団事務局長による記念植樹が行われました。

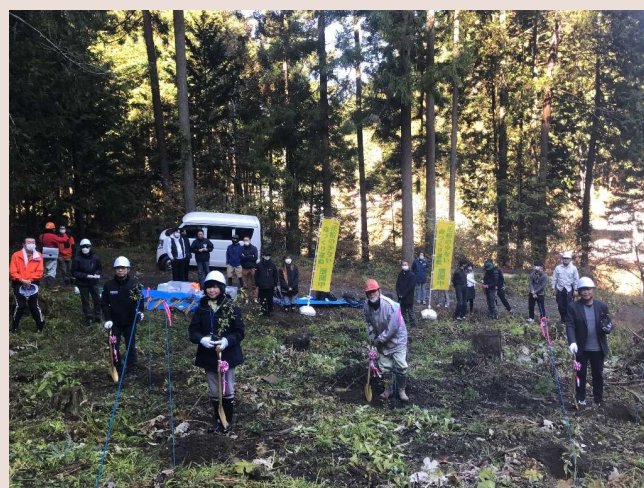


未来につなげー！

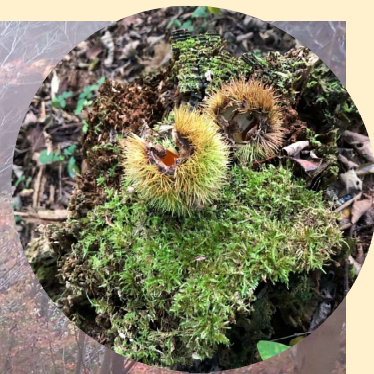
取締役佐野様のお話

「2005年以来社員及びリコーグループの皆さんやお客様のべ1600名の方に参加いただき全国各地で森づくり活動を続けてきました。豊かな自然や生態系の維持、気候変動の緩和や対策などを鑑み、今回新たに、この「リコーリースグループ豊かな未来への森」をスタートすることとなりました。みんなの森財団、農林水産振興財団としっかり連携をし、「花粉の少ない森づくり運動」を通して森林循環を実現し未来の架け橋を築いていきたいと思います。」と述べられました。

このイベントにはお子さんも参加されました。ぜひ次世代につなげていただきたいと思います。

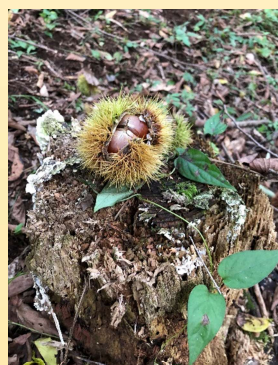


ちょっと一休み 「森のカフェテラスの話」



秋になると、動物の冬ごもりの支度が始まります。企業の森を見回ると、自然の不思議をたくさん見かけることができます。

「読書の秋」、「芸術の秋」、「スポーツの秋」というように「●●の秋」といわれることが多い季節ですが、自然界の中においても例外ではありません。9月の下旬、企業の森の巡回で「食欲の秋」を見つけました。



新宿の森あきる野（企業の森）には、花粉の少ないスギ、ヒノキのほかに、エノキ、ケヤキ、カツラ、クリ、イロハモミジといったたくさんの広葉樹が植樹されています。その林の足元には植栽前に伐採された切り株が多数点在しています。9月下旬、新宿の森を訪れた際、切り株の上に栗のイガを見つけました。最初は栗の木から偶然切り株の上に落ちたのかと思いましたが、よく見るとここにもあそこにも、すべての切り株にイガが置かれていたのです。

イガはほぼ半分に割られており、丸々とした栗が顔を出しているものも。まるで切り株のテーブルにどうぞお食べくださいと言わんばかりに置かれていました。さらに観察してみると、何者かにかじられた実まであります。これは誰の仕業？不思議に思いました。

調べてみると、これはニホンリス（日本栗鼠）が栗の実を食べた痕（食痕）だと考えられます。ニホンリスは胡桃（クルミ）の殻を割れるほど歯が丈夫です。トゲだらけのイガから栗を取り出す技術もすごい！皆様も企業の森にお越しの際に、森の不思議を見つけるつもりで周りを見渡すと楽しい発見があるかもしれませんね。

